

ラフカディオ・ハーンがつなぐ日・アイルランド交流

在アイルランド日本国大使館 広報文化班 山田有一

「100年以上も昔に様々な国に渡り、最後に日本に住んだアイルランド人がいたなんて知らなかった。今でも日本で一番有名なアイルランド人だって？」

「ラフカディオ・ハーン？ ハーンって名字はアイルランド系だとわかるけど…」

日本ではその作品が教科書に採用されるなど有名なラフカディオ・ハーン（小泉八雲）も、アイルランドでは最近まであまり知られていませんでした。

しかし、ハーンの曾孫である島根県立大学の小泉凡教授が2012年にアイルランドのトラモアを訪れたことがきっかけとなり、ここ数年、ハーンの認知度が高まりつつあります。

トラモアは、アイルランド南部ウォーターフォード市にある、ギリシャ生まれのハーンがダブリンに住んでいた幼少期に父親と一緒に夏によく訪れていたというハーンゆかりの海辺の町です。

小泉教授がトラモアで話をしたのはアグネス・エイルワードさん。彼女は、ハーンをテーマとした日本庭園を造りたいという夢を小泉教授に熱く語りました。

その後アグネスさんは、トラモア・ディベロップメント・トラストという団体のプロジェクトマネージャーとして、日本万国博覧会記念基金からの支援を得て、小泉八雲記念庭園を作り上げ、その庭園は2015年6月に開園しました。



小泉八雲記念庭園開園式にて

開園に先立って、アイルランド日本映画祭の一環で、ウォーターフォードの映画館でハーン原作の映画「怪談」50周年記念上映が実施されましたし、6月の開園にあたっては、松江市からハーンのレリーフが贈呈され、また、文化交流史として活動していた能×現代アーティストの青木涼子さんもお祝いの公演をしてくれました。

10月には、2009年からギリシャ、米国、日本で開催された一連の事業を締めくくる「The Open Mind of Patrick Lafcadio Hearn」が行われ、その中で、佐野史郎さんと山本恭司さんによる八雲作品の朗読公演が開催されました（山陰日本アイルランド協会主催）。これは、ハーンの作品を紹介するだけでなく、リーディング・パフォーマンスという日本の現代芸術の一例を紹介する貴重な機会ともなりました。

また同時期にダブリンのリトル・ミュージアムでは国際交流基金の支援も得て「Coming Home」展が開催され、アイルランドの方々にハーンとその人生、作品を紹介する機会となりました。

さて、日本とアイルランドは1957年に外交関係を樹立しましたが、日本の総理大臣がアイルランドを訪問することは2013年までありませんでした。

しかし、奇しくもハーンをきっかけとして両国の関係が盛り上がりの兆しを見せていた頃、2013年5月に下村文部科学大臣がアイルランドを訪問、6月に安倍総理大臣が日本の現職総理大臣として初めてアイルランドを訪問、そして、12月にケニー首相が訪日するというハイレベルの訪問が相次ぎ、これらが二国間関係の強化に向けた大きな弾みとなりました。

大使館としては、この勢いをさらに加速させ、日・アイルランド外交関係樹立60周年を迎える2017年を重要な節目として、様々なイベントでこの記念の年をお祝いし、両国の関係を一層発展させたいと考えています。



日・アイルランド60周年記念ロゴマーク

さらにその後も、2019年ラグビー・ワールドカップ日本大会、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、人の交流も一層活発化するよう努力を積み重ねたいと考えています。

交流は、国と国のレベルに留まるものではありません。8月に、松浦松江市長がアイルランドを訪問されたことが契機となり、ハーンゆかりの地である松江とアイルランドの交流も活発化の兆しを見せ始めています。

12月初旬に三好大使公邸にて開催された天皇誕生日祝賀レセプションには、松江市を紹介する写真パネル10枚、ハーンが好んだコーヒーを再現したというラフカディオ珈琲、松江の風流堂様から、桜・シャムロック・松江城をかたどった和菓子3種の提供を受け、招待客の皆様に松江市を紹介する機会をいただきました。招待者からは「ハーンの町・松江の紹介ですね。グレート・アイデア！」といった声が聞かれ、それぞれに味を楽しんでいらっしゃいました。



松江市紹介するパネル等



桜・シャムロック・松江城をかたどった和菓子



ハーンが好んだ味を再現したコーヒー



ラフカディオ珈琲の味を楽しむ招待客

天皇誕生日祝賀レセプションの様子

また、アイルランド日本語教師会が国際交流基金の支援を得て来年3月に開催予定の第15回アイルランド日本語弁論大会には、今年9月に松江で開催された「ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト」で受賞した高校生が派遣され、特別にスピーチをする予定にもなっています。アイルランドの方々にとって日本におけるハーンの活躍を知り、両国の古くからの繋がりを再確認する契機となると思います。

さらに、ウォーターフォード工科大学と島根大学の連携や、ウォーターフォードと松江が共有する問題を話し合うセミナーのアイデアも出るなど、ハーンをきっかけに活発化してきたウォーターフォードやトラモアの地域と松江との交流が、分野を広げながら拡がりつつあります。

そしてその動きはアイルランド側だけに留まりません。松江市は、これまでのアイルランドとの交流、2007年大阪世界陸上、2008年オリンピック北京大会で陸上選手団の事前合宿を受け入れた実績を踏まえ、陸上の事前合宿誘致を進めるとして、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会のホストタウンとして登録され、松江市の側でもアイルランドとの相互交流を一層活発化しようと努力しています。

100年以上昔に日本に渡り、日本で亡くなったラフカディオ・ハーンは、今もなお、未来に向けて日本とアイルランドを結びつけ、その輪を広げ続ける存在です。今後もアイルランド側、日本側双方が様々な試みや交流を通じて、両国の人々が将来に向けて関係を一層深めていくことを期待したいと思います。

(寄稿年月日:2016年12月12日)